

目次

研究論文 半凝固ダイカストしたAC4CH合金の α -Al相の形態に及ぼすスリーブ充填率及び射出タイムラグの影響
李 定洙, 板村正行, 平田直哉, 安斎浩一, 前田琢磨, 安達 充 387

チルプレート上で急冷凝固させたAl-17%Si合金薄板の平滑性に及ぼすリンの影響
森中真行, 豊田充潤 393

技術報告 展延性に優れたAl-Li系合金鑄塊の鑄造方法開発
才川清二 398

現場改善 自動生砂鑄造ラインのサイクル遅れ低減による出来高向上
晝田渉吾, ほか 402

アルミニウム合金ダイカストの欠け込み不良対策
古屋毅文, ほか 408

第168回全国講演大会 講演プログラム 〈1〉-〈8〉

随想 台湾人経営者からの教訓
九十九 徹 412

インタビュー「鑄物人」 414

シリーズ「海外生活体験レポート」 416

ズバリ回答・・・今さら聞けないこんなこと 418

Y F E だより 419

支部だより 北陸支部の活動状況
才川清二 420

学会関連行事日程／次号予定 426

編集後記 427

鑄造品生産量推移 428

会告

表紙の写真



表紙の写真：岩手県奥州市の水沢鑄物

コメント：南部鉄器の一つである水沢鑄物の歴史は、平安時代後期に藤原清衡が江刺郡豊田館（現在の江刺区）に近江国（滋賀県）から鑄物師団を招いたのが始まりだと言われています。豊田館周辺は砂鉄、北上山系の金、銀、銅、鉄資源に恵まれ、良質の川砂、粘土、木炭が得やすく、北上川舟運の便利なこともあり鑄造地として選ばれたものと見られています。やがて清衡が平泉に居を移すも、鑄造適地は北上川河道の移行影響を受けて、現在地の北上川中洲微高地、田茂山地帯に一大鑄物師集落が形成され、現在の水沢鑄物にその伝統が受け継がれているということです。

表紙の写真は、JR水沢駅に毎年6月から8月に飾られる南部鉄器の風鈴です。そろそろ、梅雨明けが待ち遠しいですね。また、水沢江刺駅前にあるジャンボ鉄瓶（左写真）は、高さ4.65m、重さ1.8tで日本一のサイズです。

